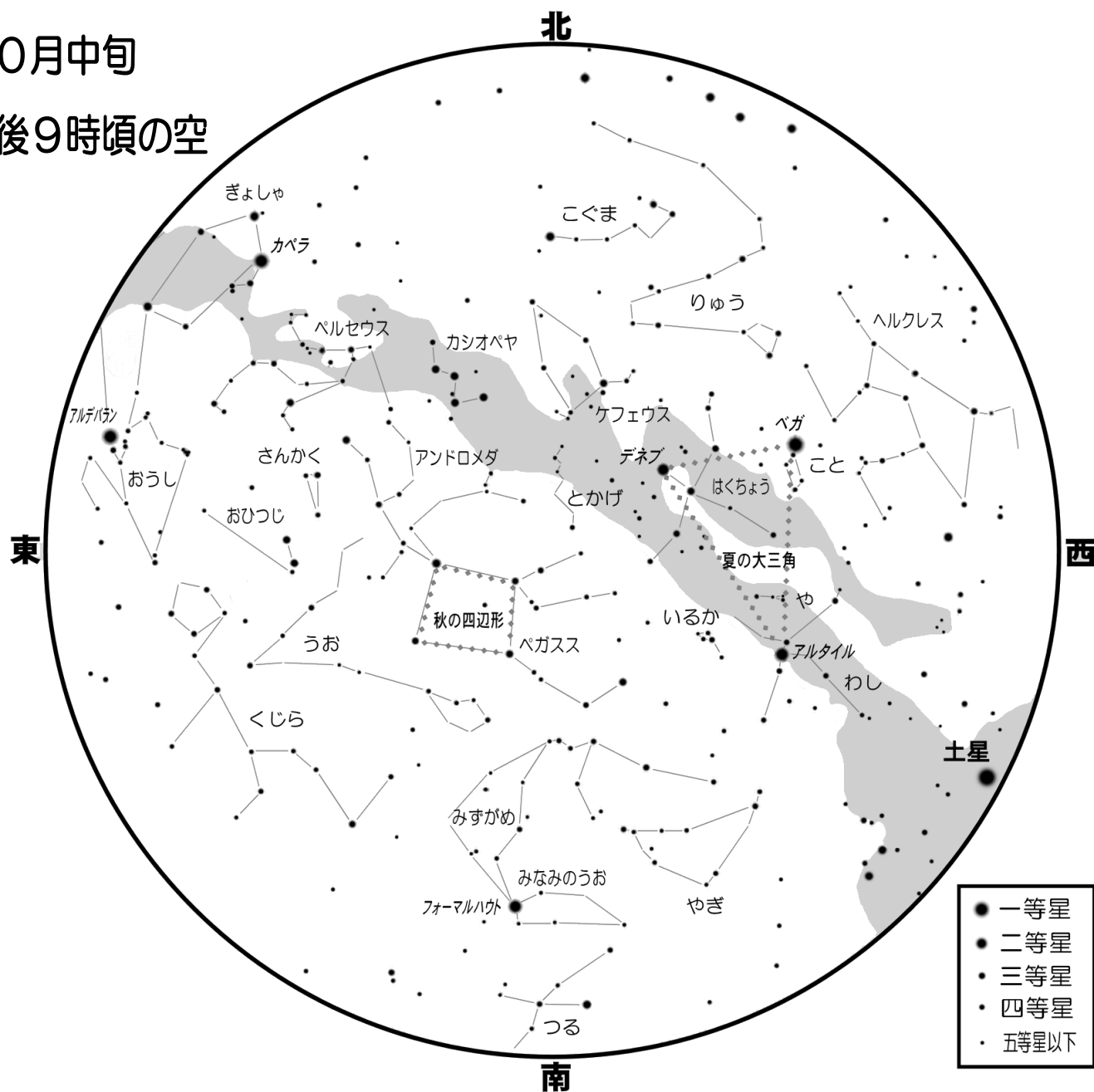


阿南市科学センター 10月の星空案内

10月中旬

午後9時頃の空



秋の星空は分類上、「みなみのうお座」にある**フォーマルハウト**が唯一の一等星となりますが、西の空を見上げてみると、まだ**ベガ**や**アルタイル**、**デネブ**の3つの一等星で作る「夏の**三大角**」が見えています。また、これら夏の**三大角**が西の地平線に沈むころには今度は東の空から1年で一番派手な冬の星座たちが昇ってきます。そのようなことから、実際の夜空では、星座の季節分類から生じる「一等星がひとつしかない寂しい空」という感じはあまり受けることはないでしょう。

さて、秋の星座はギリシャ神話の「エチオピア王家の物語」に登場する人物や動物の星座が多く見られることも特徴のひとつです。エチオピア王家の王様の星座である**ケフェウス**、その後の星座である**カシオペア**、お姫様**アンドロメダ**、勇者の星座**ペルセウス**など、神話に思いをはせながら星座を探していくのも面白いかもしれません。

天体観望会のご予約、お問い合わせは

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川洲 8-1 電話 0884-42-1600

10月の月と惑星

月の満ち欠け

月の形	○満月	●下弦の月	●新月	●上弦の月
見える日	6日	12日	20日	28日

惑星

水星	金星	火星	木星	土星
太陽に近く観察は難しい	夜明け前、東の低空に見える (-3.9等級)	夜明け前、東の低空に見える (1.8等級)	太陽に近く観察は難しい	日没後、南西の空に見える (0.3 → 0.4等級)

10月の見もの天体

○ みずがめ座の惑星状星雲 NGC7293

この時期の夜空は夏や冬に比べて少し地味な感じに見えますが、その中に潜む星雲や星団は、比較的大型の天体が多く、小さな天体望遠鏡でも十分に観察できるものが数多くあります。

そんな天体のうち、全天で最も大きい惑星状星雲として有名なのが、みずがめ座にある NGC7293 です。惑星状星雲のほとんどは、小さいものばかりで、小口径の望遠鏡での観察は苦しい中、この天体は、満月の半分ほどの直径を持ち、小さな天体望遠鏡向きの天体ということが出来ます。実際に観察する場合は、大きい天体ゆえに 30 倍から 50 倍程度の比較的低い倍率で見るのが良く、空の状態の良い日ですと、らせん状の構造も確認することができます。

ただし、大きさは大きいのですが、南中高度が約 35 度と低いことから、観察は空の状態が良いときに行いましょう。少しでも空がかすんでいたり、この天体が見える方向に明るい人工の光があったりすると、それだけでほとんど見えなくなってしまいますので注意が必要です。



今月の天文現象

10月21日(土)~22日(日) オリオン座流星群

近年、注目されている流星群のひとつに、オリオン座流星群があります。8月の「ペルセウス座流星群」や、12月の「ふたご座流星群」に比べると、出現する流星の数も少なく、地味な感じは否めませんが、2006年から2009年にかけて、1時間あたり50個ほどと、非常に活発な振る舞いが見られました。ただし、近年は比較的低調が続いており、1時間あたりの流れ星の出現数は10個程度にとどまっています。

ちなみに今年のピーク予想が日本では21日の20時となっています。ただ、この時間はまだオリオン座が昇ってきていませんので、本格的に観測ができるのは深夜からとなりますが、当日はちょうど土曜日ですので、平日に比べ観察はしやすいかと思えます。

なお、この流星群の流星はスピードが速く、時折、明るい流星が見られるのが特徴です。



天体観望会のご予約、お問い合わせは

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川洲 8-1 電話 0884-42-1600